

くすりと健康のはなし

薬包紙

第100回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
理事 小池 紫

薬は病気やケガを治すため有効ですが、使い方を間違えると効果が期待できなかつたり、副作用につながる場合があります。

服用するタイミングや一回量は、薬によって決まっています。自己判断で量を調節すると、副作用などのリスクが高まります。服用期間は、病気や薬によって異なります。症状に合わせて服用し、症状が治まれば服用を中止する場合があります。症状が治まっても、処方された日数分は飲み切る必要がある場合、自覚症状はなくても長期的に服用が必要な場合があります。また、薬によって、勝手に服用を中止すると、「リバウンド現象」を起す場合があります。薬のリバウンド現象とは、薬を急に中止することにより、元の症状より悪化したこと、治りにくくなってしまうことをいいます。ただし、副作用によっては、すぐ服用を中止する必要がある場合があります。

薬を飲み忘れた時は、気づいたタイミングや薬により対応が異なる

薬を知ろう！

ります。一般的に、気づくのが早ければ、気づいた時点ですぐ服用します。ただし、次の服用時間が迫っている時は飲み忘れた分は服用せず、次の服用時に1回分服用します。まとめて2回分服用してはいけません。薬によって、飲み忘れた場合は、その時の分は服用しないなど、飲み忘れに対する対応が異なるものがあります。あらかじめ薬を受け取る際に確認しておくとう安心です。

「薬識」という言葉があります。薬識とは、薬の用法や効果だけでなく、その薬を服用する理由なども含めた、服薬に対する認識です。薬識を高めることにより、治療がより効果的に、安全に進むことが期待できます。気になることは何でも相談して、薬について知ることが大切です。

薬局薬剤師は、「会いに行ける医療人」です。薬のことだけでなく、健康、介護のことなど、いつでも薬局でお待ちしています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。